

NARUO TSU・SHIN

なるお通信



Vol.
13

TAKE FREE

INFO
01

学生・企業・地域がつながる
「鳴尾ふれあいイベント2026」を開催！



10月25日(日) 10:00~15:30(予定) 小南運行
開催場所 武庫女ステーションキャンパス(MSC)、鳴尾駅前公園 ほか



学生と企業による企画会議

学生と地元企業が協力して企画・運営する「鳴尾ふれあいイベント」が今年も開催！毎年大好評のステージでは、学生たちによる音楽パフォーマンスをはじめ、地域の子どもたちが仮装を披露するなどして、会場を盛り上げます♪そのほか、ミニゲームやスタンプラリーなど、世代を問わず楽しめるイベントを企画中！ぜひ「鳴尾ふれあいイベント」へお越しください！

鳴尾ふれあいイベント2025の様子。

INFO
02

0~2歳児の親子の交流イベント
「チアフル親子カフェ」を開催中！

ららぽーと甲子園やUR武庫川団地など阪神沿線各所で開催中。保育士ユニットによる音楽あそびや絵本の読み聞かせ、ワークショップなど、親子で一緒に楽しもう！



INFO
03

第71回
武庫川女子大学
文化祭を開催！
10月17日(土)・18日(日)

“武庫女”として最後の文化祭！舞台公演、模擬店、展示、野外ライブ、お笑いライブなどたくさんのプログラムを準備しています。ぜひご来場ください！



※写真はイメージです。

※詳細は公式HP、SNSをチェック。

詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各情報の関連ページをご覧ください。

ランチ
どこ行く？

第13回

ステーキ
ハウス
ラ・ペイザン



今回ご紹介するのは、鳴尾・武庫川女子大前駅から徒歩6分の洋食店「ラ・ペイザン」。創業70年以上の老舗で、現在は3代目が味を受け継ぎ、地域で親しまれています。約10年前には、武庫川女子大学と共同でオレンドレッシングを開発するなど、地域活性化にも力を入れています。今回は「ハンバーグ&エビフライ」「せいり蒸しセット」「ステーキセット」を

ステーキハウスラ・ペイザン

西宮市里中町2-1-9 TEL.0798-41-2900
【営業時間】昼 11:30~14:00(L.O. 13:30)、夜 17:00~21:00(L.O. 20:00)／木曜休

私たちが
取材しました！



(左から)武庫川女子大学
食物栄養学科
大北さん、泉さん、横川さん

いただきました。どれも2,200円とは思えない豪華さで、ボリューム満点。肉汁たっぷりのハンバーグやサクサクのエビフライ、素材の旨みを味わえるせいり蒸し、やわらかなステーキが楽しめます。落ち着いた店内は、ご褒美ランチや記念日の食事にぴったり。ぜひ、本格洋食を味わってみてはいかがでしょうか。

※掲載内容は取材日(2026年7月)時点の情報です。

阪神電気鉄道

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

なるおエリマネ

なるお通信 Vol.13
(2026年秋号)

「なるお通信 Vol.14」は
2027年春発行予定です。
お楽しみに！

発行 鳴尾エリアマネジメント連絡会

(株)阪神ステーションネット/阪神電気鉄道(株)/(株)みなと銀行/
(株)武庫川学院/(株)ライフインノベーション/(株)ライフコーポレーション(50音順)

制作 (株)阪神ステーションネット 大阪市福島区海老江1-1-31 ☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。

※本誌に掲載した施設・店舗については、予告なく開館・営業時間・料金・定休日・イベントの開催時期・内容などが変更される場合があります。また、イベントが予告なく中止される場合がありますので、予めご了承ください。
※掲載の情報は、2026年7月時点のものです。

踊りで紡ぐ鳴尾の綿の物語



写真提供/尼崎信用金庫



写真提供/尼崎信用金庫



綿と種を取り分ける「綿繰り機」

鳴尾エリアマネジメント連絡会の地域活性化への取り組みが評価され、「2022年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



かつて鳴尾では、綿作が盛んだったことをご存じですか？明治初期には見渡す限りの綿畑が広がり、白い綿が一面に実る景色が見られたといいます。家々では綿をほぐす綿弓の「ペンペン」という音が響き、農作業の合間には歌や三味線、太鼓に合わせて踊る人々の姿も。やがて綿作の衰退とともに途絶えた「綿摘み(わたづみ)踊り」。その記憶を未来へつなぐため、踊りの復活に取り組む牧野さんにお話を伺いました。

女子総合大学で学生数日本一
Mukojoがある街を知る

なるお通信とは…

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌



綿の実を包んでいた萼(ガク)



鳴尾連合自治会副会長
まきの やす よ
牧野 保代さん

地域の企業や学校と連携し、綿摘み踊りの継承や小学校での授業などを通して、鳴尾の綿作の歴史を次世代へ伝える活動を行っています。

踊って、知って、鳴尾の綿作の記憶を未来へ

「鳴尾には古くから伝わる盆踊りのようなものは残っていないのでしょうか」。当時の尼崎信用金庫の支店長からの一言をきっかけに、牧野さんの綿摘み踊りの伝承活動がスタートしました。現存する資料からわずかな手がかりをたぐり寄せつつ、調査を進めていくと鳴尾高校の放送部に残されていた録音テープを発見。そこには「綿摘み踊り」を踊っていた女性への取材や、「綿摘み唄」の音源が記録されていました。振り付けの記録は残っていなかったものの、子どもの頃に踊りを隣で見ていたという、踊り手の姪にあたる方にも協力してもらい、手探りで踊りを再現していくことに。正確に復元することよりも、まずは踊りを途切れさせないように今できる形で残すことを選びました。

そして踊りの背景をたどるうちに見えてきたのが、綿作を支えた鳴尾の土地と、そこで暮らしてきた人々の姿です。鳴尾は川の氾濫が多く、稲作には向かない土地でしたが、当時の人々はこの土地に適した作物を育て、暮らしを営んできました。「鳴尾の人には、たくましく生きる力があります」と牧野さん。綿の実から種を取り、綿を柔らかくするのは時間がか

かる大変な作業ですが、その息抜きとして人々は歌い、踊りを楽しみました。綿摘み踊りは、そんな鳴尾の暮らしと、人々のたくましさを今に伝えるものでもあります。だからこそ踊りだけでなく、綿が鳴尾で育てられていた歴史を次の世代へ伝えることを牧野さんは大切にしています。現在は、地域の祭りで綿摘み踊りを披露するほか、小学校で子どもたちに綿の歴史や栽培方法を教えています。「子どもたちが大きくなったとき、『鳴尾』を何も語れない故郷にはしたくない」。そんな想いを胸に、牧野さんは鳴尾で暮らしてきた人々の記憶を未来へと紡いでいます。



阪神・鳴尾村誌(1889～1951)／西宮市鳴尾区有財管理委員会

1928年7月26日に阪神甲子園球場(当時は甲子園大運動場)で開催された「鳴尾綿摘み音頭大会」の様子。



みんなで踊ってみよう! 綿摘み踊り

鳴尾で行われていた綿作を想像しながら
綿摘み踊りに挑戦してみよう。



鳴尾の 「綿摘み唄」



イヤー ヨーホホイ ヨーホホイ
同じこの町のお庄屋の娘
アー ソレジャエー ソレジャエー
年は十六 その名はお杉 ヨーホホイ
盆のことなら お寺の施餓鬼
アー ソレジャエー ソレジャエー

(一部抜粋)



種(写真上)から芽を出し、花を咲かせる綿。ピンクや黄色などの美しい花(写真下)が咲いた後に、ふわふわの綿が実ります。

武庫女の 先生に聞く interview

歴史文化学科の河野先生に、全国に知られた「鳴尾綿」と、その品質を支えた鳴尾村の綿作について教えていただきました。



武庫川女子大学
河野 未央 先生
文学部歴史文化学科准教授
尼崎市立歴史博物館職員等を経て2024年より現職。専門は日本近世史・アーカイブズ学。国立公文書館認証アーキビスト、博士(学術)。

「鳴尾の土壌が育んだ綿」

武庫川が運んだ白い砂により 育まれた高品質の「鳴尾綿」

江戸時代の農学者・大蔵永常(おおくらながつね)は、綿作には「砂真土交(すなまつちまじ)りに基石の如き小石ある土地」(『綿圖要務(めんぼようむ)』)が良いとしており、理由に水はけの良さを上げています。往時の鳴尾村の地は、武庫川が運んだサラサラとした白い砂で覆われていました。水はけが良く、綿作にはまさにうってつけ。鳴尾村の綿作は、明治10年代後半に生産のピークを迎えたとされますが、武庫川が運んだ土の恵みを活かした農業が行われていたといえます。

西摂(せいせつ)地域(現在の阪神間)では綿の生産が盛んで、『綿圖要務』でも摂津産の真っ白な綿(「坂上綿(さかじょうめん)」)は、関東で大変好まれたことが記されています。

明治期には、「坂上綿」のなかでも「鳴尾綿」は品質の良さから全国に知られたそうです。ところで、『武庫郡誌』にもうひとつ、鳴尾村のかつての「名物」を見つけました。それは「盆踊り」です。近隣から多くの見物客が来ていたようです。「鳴尾綿摘み踊り」が再度鳴尾の「名物」になればと期待に胸を膨らませています。



綿を摘む図
(大蔵永常『綿圖要務』、国立国会図書館所蔵)